平成３０年度

第1学年 算数

授 業 改 善 の 推 進 プ ラ ン(案)

武蔵野市立境南小学校

児童の実態・指導方法の課題分析	授業改善のための具体的方策
〈 関心・意欲・態度 〉 ・初めての算数に対し、意欲をもち学習する児童が多い。 ・算数の発表の仕方を示すことによりすすんで前に出て自分の考えを示す児童が増えたが、つぶやきという形での表現に留まる児童もいる。	**〈 関心・意欲・態度 〉** ・１年生が興味をもつような教材を提示する。 ・自分の考えを伝えるための形式を提示し発表を促す一方で、つぶやきも取り上げ、友達の考えを知り学び合うことで算数の楽しさを感じさせる。
〈 数学的な考え方・表現 〉 ・問題文を読み、キーワードに着目して立式（加法・減法）することを課題とする児童がいる。（およそ２割）	**〈 数学的な考え方・表現 〉** ・「あわせて」「ふえると」「のこりは」「ちがいは」など，単元学習の中で変化していくキーワードに着目させる声掛けを行う。 → 子供自らの気付きを促す。 ・単元導入時に既習事項の振り返りを行い，基礎基本の確認を行う。 → 既習事項を用いて自ら考える習慣を身に付ける。 ・図や絵、ブロックなどの具体物や半具体物、デジタル教科書を用いる。 → 数量関係の可視化により、学習内容の理解を深める。
〈 数量についての技能 〉 ・２０までの計算で、１０のまとまりを意識して計算する考え方が定着していない児童がいる。 ・２０までの加法と減法の習得を確実なものにするために、１０のまとまりを意識して、合成・分解の意味を繰り返し考えさせる必要がある。	**〈 数量についての技能 〉** ・授業や宿題で、計算の反復練習をさせる。 ・図や式を用いて計算過程を説明する活動を行う。 → 数のもつ意味を考え計算できるようにする。 ・たまごパックや鉛筆など児童が身近なものを提示する。 → 日常生活でも合成・分解を意識できるようにする。
〈 数量についての知識・理解 〉 ・求残の減法は９割ほどが確実に理解できたが、求補、求差の減法の区別が十分でない児童がいる。 ・数直線を用いての基準の数との大小、順序等について理解が十分でない児童がいる。既習事項と関連付けての指導が必要である。	**〈 数量についての知識・理解 〉** ・図や半具体物を用いて、視覚的、体験的な理解につなげる。 ・既習の概念（いくつといくつ）を求補・求差に生かして問題解決をする学習時間を確保する。 ・数直線と加法減法を関連付けて指導する。